

ケニア滞在記 ⑧

中国や韓国の進出！諸外国の援助？

藤井 佐富

私は6回ケニアに行っています。最初はインド人の存在に驚きました。英国の植民地時代に連れて来られたインド人が定着し経済の中心を担っています。でも、今は中国の進出に圧倒されています。道路整備をはじめ、ホテルやマンションも建設ラッシュです。中国企業の看板が掲げられ多数の中国人が働いています。

オートバイは日本の独壇場のはずが中国製です。

ケニア第2の都市、モンバサを結ぶ横断鉄道（21両編成！）に数回乗っていますが、運行時間はでたらめ、線路は歪み！たった500kmの距離を17時間（途中の草原で説明無しに1時間以上も停止）のゆっくり走る列車です。義母が「佐富さん！地震や！怖い！」と何度も起されるほど、縦に横に激しく揺れるしんどい列車（寝台列車）でした。ところが、最近見たTVでは中国の全面支援で快適な快速列車になっていました。



モンバサはケニア最大の貿易港です。港湾整備は日本のODA事業で行われました。中国は、この港を「一帯一路」構想で海のシルクロードの拠点と位置づけ「鉄道整備の借金返済の目途が無いなら港湾権利を譲れと迫っている」という報道です。所謂「債務の罠」です。

電化製品で見ると、携帯電話はノキア（フィンランド）が主力でしたが、スマホではサムソン（韓国）です。TV、ビデオデッキ、冷蔵庫は、サムソンとLG（韓国）が激しい販売競争を展開しています。日本製は優秀だと認められても高価で必要以上の機能も災いし敬遠されています。ケニアが求める製品作りが出来ているとは思えません。残念です！

自動車は全て輸入です。新車には250%の関税がかけられ、7年落ちの中古車から関税が解除されます。故に古い車が多く三十年前のサニーやブルーバードが現役で走っています。自動車の80%は日本車（特に人気はトヨタ）です。ラリーに強いスバルやフランスのプジョーも人気です。

トラックはいすゞ。インドとの関連でタタのトラックやスズキの軽自動車（インドにいち早く進出）キャリーもよく走っています。



娘婿の実家（ケノール）では、掘りきれていない井戸を完成させたいと聞いて1万シル（約1万円）の資金援助したのですが、「子牛を見せたい」とのお誘いを受けて再訪問。井戸が子牛に？なぜ？…餌の草はいくらでも

あり、糞は野積みして畑の肥料になる。次はお乳が取れる。大きくなれば高く売れるとの事。納得出来ました。井戸はゆっくり掘るそうです。

先進国のODA（政府開発援助）に対する批判をよく聞くけど「押し付けではだめだ」という事でしょう。学びました。

（京都 AALA 機関紙に掲載）